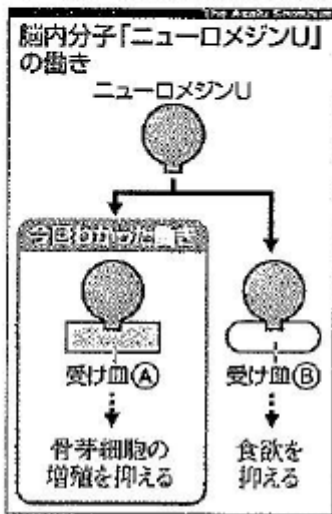


食欲抑える分子に 骨量調節の働きも



脳内にある食欲に関係する分子に、骨量を調節する働きもあることを、東京医科歯科大の竹田秀一、特任准教授らのグループが見つけ、16日付米医学誌「ネイチャー・メディシン」電子版に発表する。この

東京医科歯科大グループ発見

分子の働きを抑えると、骨が増え、骨粗鬆症の治療薬開発に結びつく可能性があるという。

グループは、「ニューロメジンU」とよばれる食欲を抑える分子に注目。この分子がないマウスは、骨をつくる「骨芽細胞」が増え、骨量が増えることを突き止めた。このマウスの脳に、ニューロメジンUを与える

と、骨が減ることも確認した。

竹田准教授によれば、ニューロメジンUが働きかける受け血には2種類あり、その一つが、食欲とは関係なく、骨量調節にかかわるといふ。この受け血をねらえば、食欲が増して体重が増えることなく、骨だけ増やす治療法の開発に結びつく可能性があるとみている。